

英米文学概論

ロマン派の時代

社会構造の変革と文学作品

Industrial Revolution (産業革命)

* 18世紀後半の英国にはじまる (第1次産業革命)

< 生産技術の革新とエネルギーの変革 >

➔ 綿工業での**手工業**に替わる**機械の発明**
蒸気機関の出現と**石炭エネルギー**の利用
鉄道と蒸気汽船の実用化

➔ 社会構造の変革をもたらした
「資本家」と「労働者」からなる、資本主義社会

産業革命の影響

農業社会から**工業**社会へと移行

その結果

→ **人口の都市集中**

(新興都市：マンチェスター、バーミンガム、リヴァプール)

一方で

労働者は無権利・・様々な**労働問題**

都市部の**貧困と不健康**

*** こういった社会背景が文学作品に反映されるようになる**

ロマン派 (Romanticism)

- 18世紀末～19世紀のヨーロッパ
- それまでの理性や合理主義への反動、
 - ➔ 「**感受性**」「**情緒**」「**主観**」に重きをおく
 - どこにもない、しかしどこかにある理想の世界や境地を絶えず求める心情

① 古典主義に相對する概念

- ➔ギリシャ・ローマの古典・古代を理想と考える
- ギリシャ・ローマの学芸・文化を模範として仰ぐ傾向

② 産業革命への反動ともとらえられる

ロマン主義の6大詩人

- **William Blake** (1757-1827) ブレイク
- **William Wordsworth** (1770-1850) ワーズワース
- Samuel Taylor Coleridge (1772-1834) コールリッジ
- George Gordon Byron (1788-1824) バイロン
- Percy Bysshe Shelley (1792-1822) シェリー
- John Keats (1795-1821) キーツ



William Blake

(1757-1827)

- 靴下商人の両親のもと、ロンドンに生まれる
- 幼少期から絵の才能があり、絵画の学校に入り、**挿絵画家**として生計を立てていた時代もあった

詩集

- *Songs of Innocence and of Experience* (1785)
「無垢の詩と経験の詩」

Songs of Innocence and of Experience

詩集「無垢の詩と経験の詩」

Songs of Innocence (1789) の内容

- The Shepherd
- The Lamb
- The Tyger
- The Little Black Boy
- The Blossom
- The Chimney Sweeper
- The Little Boy Lost
- The Little Boy Found
- Laughing Song
- A Cradle Song など



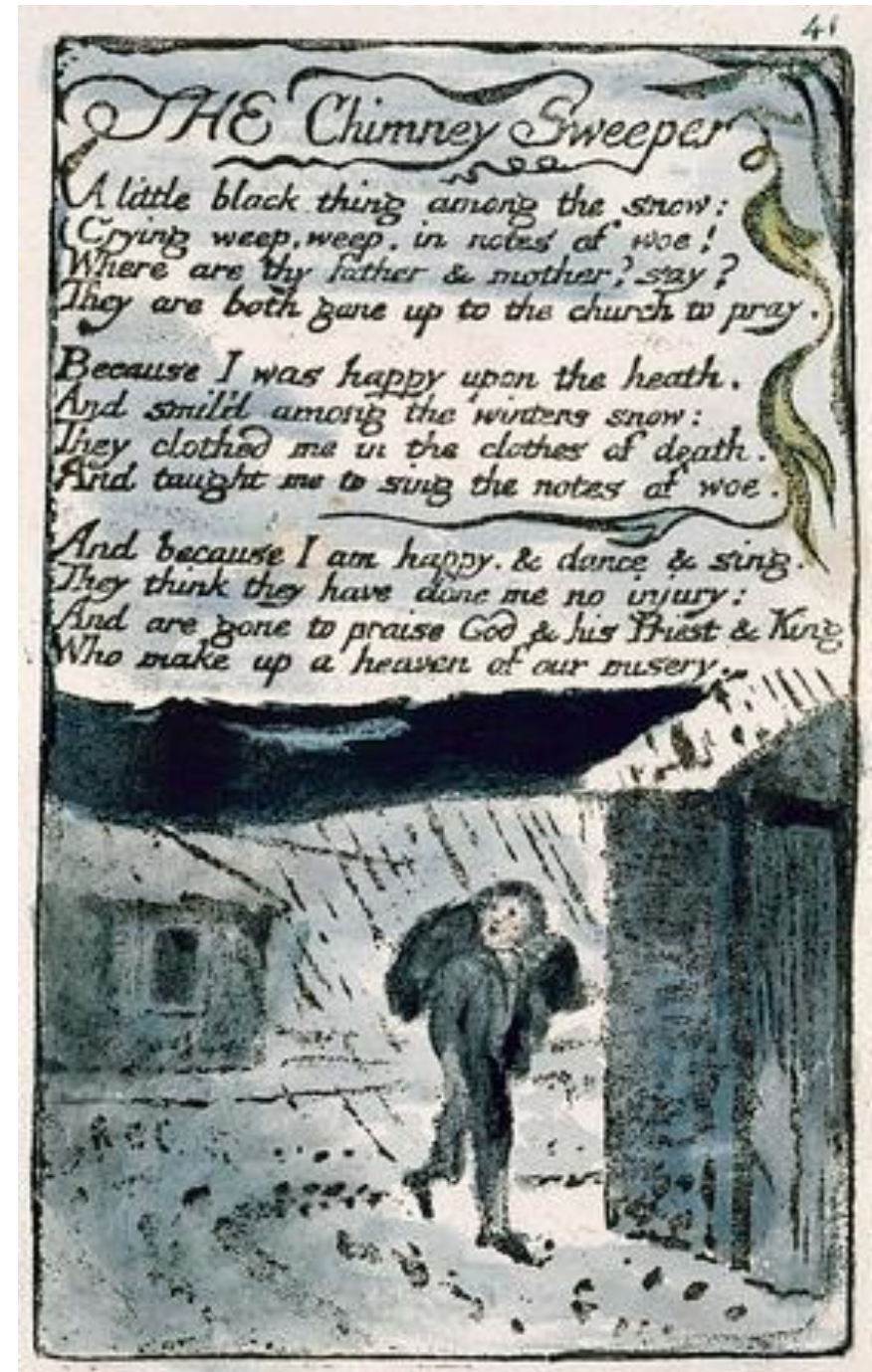
ロマン主義の「子ども」

- 「子ども」を**無垢で繊細、けがれの無い、神聖な存在と見なす。**
文明にけがされていない

* 反して、古典主義において、
「子ども」は無知で未熟な存在

Songs of Innocence 『無垢の詩』 から Chimney Sweeper

- 18世紀後半～19世紀のイングランドで浮き彫りになった**child labour**(幼年労働)
- 4～5歳で、少年は**煙突掃除**をするために売られる。理由→身体が小さくて煙突に入れるから
- 大抵の場合、煙突に落ちるか、肺の病気になるか、すすが原因の大病にかかり亡くなった。



The Chimney Sweeper

When my mother died I was very young,

And my father sold me while yet my tongue,

Could scarcely cry weep weep weep.

So your chimneys I sweep & in soot I sleep

→ I sweep your chimneys

→ I sleep in soot.

tongue 発話する能力

can scarcely ~

かろうじて~できる

weep しくしく泣く

sweep 掃除する

soot すす

2連目

There's little Tome Dacre, **who** cried **when** his head

That curl'd **like** a lambs back, was shav'd, so I said.

Hush Tom **never mind it**, **for** **when** your head's bare,

You know that the soot cannot spoil your white hair.

curled:カールする

lambs back:

子羊の背中

Hush 「し〜っ」

for ということも

bare: むき出し

(坊主)

white hair 金髪

3連目

And so he was quiet, & that very night,

As Tom was a sleeping he had **such** a sight,

That Thousands of sweepers Dice, Joe, Ned & Jack

Were all of them lock'd up **in** coffins of black,

such ~ that …

…のような～

locked up :

閉じ込められる

coffin: 棺

4連目

And by came an Angel **who** had a bright key,

→ an Angel came by

And he open'd the coffins & **set** them all **free**.

Then down a green plain leaping laughing they run

And wash in a river and shine in the Sun.

set A B

AをBにする

set them free

a green plain

緑の草原

leap 飛び跳ねる

laugh 笑う

5連目

Then naked & white, all their bag left behind,

They rise upon clouds, and sport in the wind.

And the Angel told Tom, if he'd be a good boy,

He'd have a God for his father & never want joy.

bag →

(煙突掃除) の仕事靴

left 置く

rise 上がる

sport 楽しむ

want 求める

6連目

And so Tom **awoke** and we **rose** in the **dark**

awake 目覚める

rise 起床する

And **got** with our **bags** & our **brushes** to **work**.

Tho'the morning was cold, Tom was happy & **warm**,

Tho': **Though**

Though A, B

Aだが、B

So **if all do their duty, then need not hear **harm**.**

duty 務め、任務

詩の解釈例

“if all do their duty, they need not fear harm”

- ・ 「現世の仕事や困難に耐えると来世に良いことが待っている」という教会の教えに対する**批判**
- ・ 「来世の報い」という考え方が、結果的に搾取を容認する結果に
- ・ **無垢で繊細**であること ➡ 危険性を孕む・ 幼児労働という虐待

William Wordsworth

(1770-1850)

- 代表的なロマン派詩人
- Lake Poets(湖畔詩人) の1人
- 純朴ながらに情熱的な自然賛美
自然の景観や鳥の鳴き声などから、イメージや
ヴィジョンを感受し、心情を投影させた
- 1843年、73歳のとき「桂冠詩人」 poet laureateに

“To the Cuckoo” (郭公に) “The Daffodils” (水仙)

“My Heart Leaps Up” (虹)



Lake Poets (湖水詩人 or 湖畔詩人)



- 19世紀、イングランドの**湖水地方**に住んでいた詩人たち全員を指す。
- ロマン主義運動の一部と見なされている
- 代表する詩人
ワーズワース (妹 ドロシー)
コールリッジ
ロバート・サウジー

My Heart Leaps Up When I Behold (1802)

My heart **leaps up** when I **behold**

A rainbow in the sky:

So was it when my life began;

So is it now I am a man;

So be it when I shall grow old,

Or let me die!

The Child is father of the Man;

And I could wish **my days** to **be**

Bound each to each by natural **piety**.

leap up おどる、跳ねる

behold(古) = look at

Or~ さもなくば~

my days 私の日々

be bound 結ばれる

each : “my days”の1日1日

piety 敬愛

Jane Austen

(1775-1817)



- England南部ハンプシャートン、ステイブントン生まれの小説家
- 当時の**女子としては、良い教育を受けた。**
1785年レディング修道院女子寄宿舎学校の時代に、多くの文学作品にふれ、89年には小説の原型を書き始めた。
- 私生活にはほとんど変化が見られず、イングランドの**田舎で家族とともに静かに暮らした**と言われる

anonymous な女性作家たち

- 当時、女性の理想的な役割は「妻」「母親」
- 「書くこと」に専従したいと願うことは、女性としての評価を下げることだった
- そのため、女性作家たちは匿名(anonymous)で小説を書き、出版することとなった

「田舎に3、4の家庭があれば、小説を書くには充分なのです」

- 長編小説「**高慢と偏見**」「**分別と多感**」「**エマ**」等の舞台は、すべて平凡な田舎の名家
- 登場人物は**名家の娘、その家族、牧師や軍人などの紳士**
- 男女ともに**理想の結婚相手をめぐる出来事**を通して、人間観察・人間心理が、徹底的に描写される
(ユーモアやアイロニーあふれる文体が魅力)

Adaptation → 『ブリジット・ジョーンズの日記』

Pride and Prejudice (1813)

『高慢と偏見』

- **ベネット家**：両親 (Mr. and Mrs. Benet) と娘たち (5人姉妹) の恋愛と結婚をめぐるストーリー
- 才気あふれるヒロイン**エリザベス**が、高慢な紳士**ダーシー**に対する偏見や誤解を解く過程を通して、自己や他者、社会とのかかわりに気付いていく



画像は2005年公開の映画